

傍樂仲間達それぞれの耿潔為る一遍之詩

志操



「志操」とは余り耳慣れぬ、否、目？慣れぬ言葉であろう。通常「しそう」と云えば「思想」を文字通り、想い描くからだ。巷間、社長には「哲学」と思想が必要だと云われる。左記を甚だ僭越乍ら誤解を恐れずに社長なりの簡略な解釈で記せば斯様に為らう。【哲学Ⅱ世界を己の言葉で捉えること】、「思想Ⅱ其之捉えた世界を如何に生きるか」。我が社の経営理念と経営計画書の関係に似たりと云うても、過言では無い。さて、そもそも「志操」とは本来、其之揺るがぬ信念のことを云う。これもまた、我が社の経営理念のことを正しく表現していると云うべきだ。が、しかし、私は、此之「志操」に勝手乍ら己の哲学と思想を帯びさせたい。其之揺るがぬ「志」と「操」に、である。

「志」について、所謂「四書五経」と云われる古典、其之「五経」のひとつである「詩経」（日本では講談社学術文庫：目加田誠著が名高く、以下に引用する）の大事に云う、「詩は人心の発露せるものである。人の心に在るのが志で、之が言に発して詩となる。…」

左様、社長だけが先述したような「哲学」「思想」延いては「志操」を持ち得るもので有ろうはずが無い。詩に云う、そもそも、ひとりひとりの人々の心に「志Ⅱ経営理念への想い」が在るのだから。

「操」とは、清廉、耿潔で在ること、其之ことへの信念。我が社に於いて云う為れば、法令遵守は無論のこと、環境整備への信念（規律・清潔・整頓を遂行することで傍樂仲間達の安全・衛生を守ること）、経費節減への信念（ひたたく云えばカネにきれいなこと）、そして其之社長三大方針の土台ふたつを以て何より「お客様要求品質第一に徹する」に於いて、偽りの無い正しいものづくりを行うこと。

傍樂仲間達よ、いつも心に「志」を、くちびるに「詩Ⅱ経営理念」を！

傍樂仲間達みんなが其之美しい掌で「操」を示す、社長三大方針実践を！

みんなの「志操」が織りなされるとき、私は、再生最終局面の最も暗い闇のむこうに、新たな挑みへの払暁が訪れていることを確信して止まぬ。

代表取締役社長CEO兼グループCEO

小野有理